



エイチテックの新サービス

カーボンオフセット付き土壌汚染調査・対策という選択肢。企業経営上大きな課題となる土壌環境問題だが、エイチテック(広島県福山市、084・953・2721)が来月から開始する土壌汚染調査・対策業務のカーボンオフセットサービスは、土壌環境の調査や対策をしつつ地球温暖化防止対策に貢献する仕組み。有害物質の負荷削減の取り組みが温暖化効果ガス対策にもつながるサービスは、CSRの観点からも注目されそうだ。(一面参照)

同社は2004年に土壌汚染調査事業に参入し、25年度に90年度比マイナス25%の温室効果ガス排出削減を目標とすることを発表するなど、地球温暖化防止対策の推進が世界的な流れであること踏まえ、同社の主要事業の土壌汚染調査・対策業務において発生する温室効果ガス(CO₂)を「カーボンオフセット」する仕組み(図1)を導入した。

具体的には、調査・対策業務発注後、現場への運搬距離と稼働日数からCO₂排出量を算定す

カーボンオフセット付き土壌汚染調査対策という選択肢

有害物質の負荷削減が温暖化ガス対策に貢献

図2 実施証明書書の例 (エイチテック提供)



「証明書」の発行も

例えば、大阪府庁での「企業(試算では山陽建設工業)班1台の合計2台が1台、パートナー(往復47.0キロメートル)の合計距離数は、886.8キロメートル(往復ともに有料道路を使用と仮定)となり、機材・人員に付帯するCO₂排出量は507.62キログラム-CO₂となる。

これに、ボーリングマシン(東亜利根ボーリング社製EP26)など現場での調査業務に付帯するCO₂排出量(稼働台数2台、稼働日数3日)182.36キログラム-CO₂を加算すると、同調査業務のCO₂排出量は、740キロ

グラム-CO₂(小数点第1位は繰り上げ)と算定されることになる。

この排出量について第三者から排出権を調達し、相殺し、発注者に対してカーボンオフセット実施証明書(図2)を発行するとしている。排出量算定の原単位は、使用するボーリングマシンの種類の変更などによって燃料使用原単位が変わることもあるが、移動距離の算定や機材使用による排出量の算定式も社内でもマニュアル化している。

カーボンコンサルティンクも展開へ

さらに、同社ではこれと同時に、カーボンオフセットプランニングやカーボンリスクコンサルティングをスタートさせる考えだ。

事業活動におけるCO₂排出量の算定やカーボンオフセット商品&サービスのプランニング、運営アドバイスといった地球環境貢献を絡めた事業活動をサポートするとしており、今後の同社の展開が注目されそうだ。